

# 冬の大地に

(昭和四十八年寮歌)

伊藤潤平君 作歌

矢野哲憲君 作曲

一

冬の大地に夢は醒め  
あさひに浮ぶ白亜城  
原始の森は樹氷咲き  
西方空を眺むれば  
新雪淡き手稲山

二

ポプラ並木の葉も落ちて  
秋の香深き夕間暮れ  
白日西に沈み行き  
素月東の森に出ず  
乾坤環り復た周る

三

浜茄子の砂丘たらずみて  
はるかに眺むオホーツク  
知床の嶺雪かぶり  
沈む入日に白鳥の  
飛影ぞ哀しく消え去りぬ

四

旅のロマンに誘われて  
支笏の岸にさまよえば  
静寂の嶺は荘厳に  
仰ぐ星座は闇に浮き  
静に光る北極星

五

荒ぶ吹雪ぞ旅の魂  
一年涙胸に秘め  
我が夢かけるオリオンに  
我が春永久に朽ちざらん  
蝦夷が大地ぞ忘るまじ